

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091900052		
法人名	社会福祉法人 真養会		
事業所名	グループホーム 老花家		
所在地	〒825-0002 福岡県田川市大字伊田2585番地4		Tel 0947-50-8800
自己評価作成日	平成29年02月09日	評価結果確定日	平成29年03月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		Tel 093-582-0294
訪問調査日	平成29年03月09日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「真心のこもった対応で真剣に福祉に取り組み、真の福祉社会に貢献します」を理念とし、その人らしく生活して頂き要望や希望に対しNOと言わないサービスを徹底している。  
 ・食事については、利用者様が食べたい物や好きな物を考慮しメニュー作成を行っている。また、野菜を中心とし塩分を控えた栄養バランスの摂れた物や食事形態にも十分配慮している。  
 ・日常生活の中で、入居者様が今出来る活動をリハビリも兼ね行っている。食前・食後のテーブル拭き・食器洗い・洗濯物畳みなど、ホームの中での役割を担って頂きながら入居者様一人ひとりと充実した生活を送られるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「老花家」は、自然が残る住宅地の中に、デイサービス併設で1ユニット(定員9名)のグループホームである。町内会に加入し、地域の祭りや清掃活動に利用者職員が参加し、法人全体の夏祭りやホームの行事に地域の方や家族、ボランティアが参加し、地域との相互交流が広がっている。利用者の明るい笑顔は、ホームの雰囲気や和らげ、情緒の安定に繋がり、利用者が自由で、楽しい暮らしの支援と、カラオケ等の音楽療法を盛り入れ、利用者の身体機能維持に取り組み、明るい笑顔を取り戻した利用者を見守る家族からは、「ここを選んで良かった」と、ホームとの深い信頼関係が構築されている。利用者の馴染みのかかりつけ医の受診を職員が同行して行い、主治医と信頼関係を築き、結果を家族に報告し、家族の安心に繋げている。また、職員が心をこめて作る手づくりの料理をほとんどの利用者が完食し、利用者の健康増進に繋げ、地域社会に貢献出来る事業所として、今後益々期待したいグループホーム「老花家」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「真心のこもった対応で、真剣に福祉に取り組み真の福祉社会に貢献します」を理念に掲げ、入居者様の要望にNOと言わないグループホーム作りを目指している。	法人理念を見やすい場所に掲示し、申し送り時に職員間で唱和し、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解し、グループホームだから出来る介護サービスの提供に取り組み、利用者や家族の安心に繋げている。また、職員は、介護に迷った時には理念を振り返り、介護の原点に戻っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	三井鎮西地区より敬老の日に記念品を頂く。餅つき大会等校区行事に参加依頼があれば、利用者様の体調を考慮しながら参加させて頂く。	法人全体の夏祭りには、地域住民や家族の参加もあり、利用者と職員は、地域の一員として清掃活動や盆踊り大会、敬老会にも参加し、地域交流の輪が広がっている。また、近所の公園へ散歩に出掛け、地域の方と挨拶を交わしたり、立ち話などで近所付き合いが始まり、開設4年目を迎え、少しずつ地域交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常時、認知症の方への対応方法や困難な事例などスタッフ間で検討している。また、併設しているデイサービスとの連携も行っており情報交換を密にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の取り組み内容を報告している。その際、地域での行事及び交流会などの情報を頂き参加することで利用者様へのサービス向上を図っている。	会議は2ヶ月毎に年6回開催し、地域や行政との情報交換の場として充実した会議になっている。ホームの運営状況や取り組み、課題等を報告し、外部の目を通した参加委員からは、質問や要望、情報等が提案され、出された意見や要望は、ホームの運営や業務改善に活かされる取り組みを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月空き状況など報告させて頂いている。2ヵ月に一回、運営推進会議を開催しており市の職員の方にも出席して頂いている。適切なアドバイスや意見を頂き日々の業務の参考としている。	管理者は、行政担当窓口に出かけ、介護の疑問点や困難事例、事故報告等を相談しながら情報交換し、行政と連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を説明し、保護課やケースワーカーと情報交換し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしておらず、常時開放している状態である。入居者様が外出したいと訴えあれば、その都度付添い対応をしている。入居者様の意思を尊重するよう、職員一同徹底している。	毎月の職員会議の時に、身体拘束について話し合う機会を持ち、言葉や薬の抑制も含めた拘束が利用者にも与える影響について、職員一人ひとりが理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、玄関の鍵は日中は開放し、職員の見守りで利用者が、自由に入出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で他事業所での虐待事例などを発表し、虐待防止に努めている。また、管理者は職員一人ひとりの不安な気持ちや不満等を聞く時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用はないが、勉強会への参加や行政職員の適切なアドバイスを求めるなどしていきたい。	日常生活自立支援事業や成年後見制度が、利用者や家族にとって重要な制度であることを、職員一人ひとりが認識し、勉強会に参加する等して理解を深めている。利用者や家族が制度を必要とする時には、資料やパンフレットを用意し、内容や申請手続きについて説明を行い、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にて十分な説明を行っている。内容について同意を得たうえで、契約をして頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直し時や面会時にご家族様や入居者様より要望を聞かせて頂いている。又毎月「老花家だより」を作成し、その月にあった行事や日頃の様子を報告させて頂いている。	職員は、利用者と日常会話を通して思いや意向を把握し、家族面会時に利用者の暮らしぶりや、健康状態を報告し、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や利用者の介護計画に反映させている。また、毎月「老花家だより」を発行し、遠方の家族からも、「利用者の生活状況が良く分かる」と喜ばれている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や意見交換会の時に職員の意見や提案を聞いている。常時、管理者は職員の話聞くように努め、それを早期に検討している。	毎月の意見交換会には、夜勤専門の職員も含め全員が参加し、議題は決めずに、各自が持ち寄った問題について、自由に話し合い、活発な意見交換会になっている。出された意見については、出来るだけその場で決めて実行に移すように努め、職員のやる気に繋がる会議になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員にやりがいがあるよう入居者様の担当割や食事メニュー作り・行事の計画を各自が行っている。職員のモチベーションが下がらないような環境作りにも努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては年齢・性別など問わず、本人の意欲と人柄など採用への一番の条件と考えている。勤務時間や希望休については職員間でカバーし合い働きやすい環境作りに努めている。	職員の休憩時間、勤務体制、希望休等に柔軟に配慮し、職員間でカバーし合い、働きやすい職場環境作りに努めている。日頃から、積極的に研修会の参加や、資格取得のためのバックアップ体制を整えている。また、職員の募集は、働く意欲や人柄を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設や職員の都合に合わせることなく、入居者様の一人ひとりの人権を尊重するよう努めている。意見交換会を定期的に行っており職員間で認識できている。	職員会議や毎日の申し送り時に、利用者の人権尊重について話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮した介護に取り組み、日々の気づきや疑問等についても、職員間で意見交換し、利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のケア業務に対する質の向上を目指し、資格取得等の意欲のある職員に対しては柔軟なシフトを組み対応している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人は、障がい者や高齢者の利用できる事業所が他にあり日々の業務の中で交流をする事でサービス向上に努めたい。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とのコミュニケーションを図り、御本人様・職員間の信頼関係作りに努めている。いつでも要求に応えられるような関係を保っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話での連絡で御家族様の要望など聞かせて頂いている。御家族様の今抱えている問題を早期解決ができるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様やご家族様との情報交換に努め要望を聞かせて頂いている。サービス内容について優先順位を判断し問題可決に向け早期対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には残存機能を生かしながら、今出来ることをして頂いている。ホームの中でも役割を担いながら充実した生活が送れるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会の可能である御家族の方には来て頂いている。御家族様の顔を見ることで安心感も生まれ、御本人様・御家族・職員との信頼関係も築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスを利用していた方が入居されており、今でも遊びに行くことがある。合同で行事を行うなど、コミュニケーションの場を提供している。	利用者の家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり話せる環境を提供して、また来て頂くようお願いしている。「ちょっと行って来る」と、デイサービスに遊びに行ったり、かかりつけ医への受診時の待時間に、入院中の友人を見舞ったり、帰りにお気に入りの店に立ち寄って、好物のの饅頭を買う等、ホーム入居で馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には御本人様のペースで過ごして頂く支援をしている。毎週日曜日のカラオケや健康体操など興味や関心のあるものを提供し、他者との交流の場を提供している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	平成28年8月に退去者1名あり。退去後のフォロー出来る体制ではあるが、今のところ相談・支援はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直し時には、御本人様・御家族様のこれからの生活に対する意向を確認させて頂き、それをプランに反映させて頂いている。	職員は日常生活のなかで、利用者の思いや希望を聴き取り家族と話し合い、出来る事から実現に向けて取り組んでいる。また、意向表出の困難な利用者には、職員が寄り添い、話しかけ、利用者の仕草や表情から思いを察知して、職員間で共有し、利用者の介護の実践に向けて取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時や面談時になるべく詳しく利用者様の生活歴を聞き支援計画に結び付けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	9名ともある程度生活のリズムが決まっている事を把握している。いつもと違う様子で過ごしている場合には気を付けて見守りしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングによる評価を考慮し、ケアプラン見直し時には担当者会議を開催している。関係者が不参加であれば、事前に意見を聞き取りプランを検討している。	職員は、家族面会や行事参加時に、利用者の思いや健康状態、暮らし振りを報告して話し合い、家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスで検討し、職員間で日頃の気づきを話し合い、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、話す機会の少ない家族とは、電話や事業所便りを送付して、家族とコミュニケーションを取りながら要望を聴きとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様の心身の状況など、個別のケース記録に残すようにしている。全職員が情報を共有し、プラン見直しの必要性があればその都度見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日に出た課題に関してはなるべくミーティングにて話し合い、即日解決ができるよう取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内で運営している居宅介護支援事業所やデイサービスなどの情報・アドバイスをもらいながら、利用者が安心・安全に暮らせるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居前からのかかりつけ医をそのまま引き継ぎ定期的に通院している。また、主治医との情報交換を密に行い適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診を支援し、職員が同行して、主治医と常に連絡を取りながら医療情報を共有し、家族にはその都度報告を行い情報を共有している。また、併設デイサービスの看護師に、利用者の健康状態を報告した上で指示を仰ぐ等、利用者の健康管理は安心して任せられる体制を整えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に看護師がいないこともあり、何かあれば併設しているデイサービスへの報告・相談を行うようにしている。適切なアドバイス・今後の対応など健康管理についてのサービスをして頂いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者9名が病棟のある病院に通院している。入院があった場合には、面会も兼ねながら情報交換を行っている。早期退院できるよう支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する御家族や御本人様の考えを十分に聞かせて頂いている。転医になった場合の医療機関への情報提供などグループホームでの出来ることを話し合っている。	ターミナルケアについて、契約時に利用者や家族に、ホームで出来る支援と、病院でしか出来ない支援について説明し、了承を得ている。利用者や家族の考えや希望も十分に聴き、出来るだけ意向に応えられるようにしている。利用者の重度化に合わせ、家族や主治医と密に話し合い、今後の方針を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを配置しており、全職員がいつ何があっても対応出来るよう定期的に研修を行っていく予定である。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施することで全職員が把握している。隣接の三井鎮西地区公園を避難場所としてお願いしている。	防災訓練を年2回実施し、通報装置、消火器の使い方を確認し、避難経路、非常口、避難場所を確保して、利用者を安全に避難誘導出来るように取り組んでいる。近隣に住んでいる職員が数名いるため、非常時に駆けつける体制を整え、利用者全員が安全に避難出来るように取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライドや羞恥心に配慮した声掛けを行っている。	利用者のプライバシーを尊重する介護に取り組み、利用者が持っている価値観や生活習慣に配慮したケアを実践し、煙草は主治医と相談して継続し、毎日の入浴も当たり前的事として支援している。職員は、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、入浴介助や排泄支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的にはオープンクエスチョンで投げかけ自分の言葉で答えられるよう努めている。自分の意思をうまく伝えられない方は、クローズドクエスチョンを要することもある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設や職員の都合に合わせることなく、これまでの生活リズムを大切にしよう職員全員が認識出来ている。なるべく入居者様の希望に沿うよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれ、お化粧をされるなどして楽しまれている。 買い物外出時、衣類やお化粧品を購入される方もおられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全入居者様ではないが、食事前のテーブル拭きや食後の食器洗いなどお願いしている。入居者様自身も役割を担うことで充実した生活が送れている。	職員は、利用者の嗜好を聴き取り、手作りの美味しい食事を提供している。利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、談笑しながら楽しい食事の様子である。利用者同士が声を掛け合い、配膳や食器洗い、テーブル拭きを率先して楽しそうに生き生きと行っている。また、外食に出かけ、食べたい物を注文し、利用者の健康の源になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分調節や思いこみアレルギーの入居者様それぞれの好みを聞きながら、職員が食事メニューを作成している。食事形態にも、その時の状態を十分配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した方への見守りの徹底。支援が必要な方へは、介助をしながら対応している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在のところ、おむつ対応している方はおられない。自立した方・定期的に声掛けが必要な方などおられるが、その人その人の排泄パターンに合わせて対応している。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けやトイレ誘導で、自立に向けたトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を出来るだけ行い、利用者の自信回復とオムツ、紙パンツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便促進剤にて対応している方もおられるが、なるべく自然排便を促すため、無理のない運動を行っている。病識が欠如している方については、説明など行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は基本的には入浴して頂けるよう準備している。入居者様の好まれるタイミングで提供している。毎日入浴をされる方もいる。	日曜日まで毎日入浴出来るように配慮し、半数の方が毎日入浴している。また脱衣所を広くとり、手すりを沢山設置し、浴室はカラフルなタイルを用いて、清潔感や明るさを表現し、気持ちよく入浴出来るよう配慮している。入浴拒否のある方に対しては、無理強いせず、タイミングを見ながら声掛けを行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣や生活リズムを大切にしながら対応している。居室で休まれる際には温度調整・明るさなど、それぞれに合った環境にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更の際には、申し送りと薬情を職員がそれぞれ確認している。薬については、基本的には施設側で管理し提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週日曜日の午前中、カラオケの日としており歌が好きな利用者様が多数おられ楽しみにされている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	入居者様それぞれの行きつけの美容室にお連れするよう支援している。御本人様が「行きたい」と言われれば、すぐに対応している。	天気の良い日を利用して、毎日のように隣接団地の公園への散歩を日課とし、東屋でお喋りし、敷地内の鶏小屋に寄って帰るのが散歩コースとなっている。また、買い物や花見、病院受診、バスハイク、外食等に出かけ、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名の入居者様に毎月決まった金額のお小遣いを渡している。買い物には自己管理しているお金の中から支払いをされている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2名の利用者様は御自分で携帯電話を持たれており、一部の入居者様については、御家族様への連絡を希望されているため定期的に電話させて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を出すため、テレビを見たり洗濯物をたんとんだりといった何気ない光景が多くある。職員全員が家庭的な雰囲気作りに努めている。	家庭的な雰囲気の室内に、行事の写真を掲示し、季節の飾りで温かい環境を整えている。リビングルームでは、利用者一人ひとりが、自分の居場所でテレビを観たり、お喋りしたり、洗濯物を畳んだりして楽しんでいる。食事の配膳や食器洗い等も自分の役割として行い、ホームは皆にとっての大きな家である事が窺える。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様が同じテーブルになれるように食事の席も考慮している。施設内には喫煙コーナーも設けており、利用者様同士の会話を多く見られている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外の家具は各入居者様が持ち込まれている。以前の施設などで使い慣れて物を持ち込み、それぞれ自分好みのお部屋にしている。	利用者が長年使用した馴染みの家具や寝具、鏡や生活用品を家族の協力で持ち込み、自宅と違和感のない雰囲気にして、利用者が安心して穏やかに寛げる環境の中で、明るくて清潔で、居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーである。多くの手すりを設置し御本人様の残存機能を生かせる環境にしている。		